

15 卒業生動向調査

高知女子大学

○大名門裕子(17回生)

野嶋佐由美(20回生)

森下 利子(19回生)

はじめに

1984年 第4回日本看護科学学会が高知で開催されるのを機に、高知女子大学看護学科の4年生大学としての30年の歩みが看護の発展にどのような貢献をしてきたかを考えるため、1983年3月までの卒業生の方々から質問紙により情報収集をさせて頂いた。

遅くなりましたが集計結果を報告するとともに、この調査の結果をふまえて卒業生それぞれが今後の課題をみいだしていく資料にしていいただければ幸いです。

調査目的：高知女子大学看護学科卒業生の過去30年の歩みと看護への貢献を考える。

調査対象：高知女子大学看護学科卒業生1～29回生の572人

調査方法：質問紙郵送法

調査期間：1984年5月～7月

結果の概要

1. 対象の概要

質問紙の回答を各項目毎に卒業年代別(S30年代卒、S40年代卒、S50年代卒)の分類と、職業別(看護婦、保健婦、養護教諭、看護教員—高校・大学、その他)の分類によって整理分析した。

質問紙の回収数は253(44%)で卒業年代別内訳は表1に示した。

253人中188人(74%)が就業しており、看護教員、保健婦、養護教諭、看護婦の順にはほぼ同率であった。卒業年代別でみると、S30年代卒は看護教員、養護教諭が69%を占め、S50年代卒は看護婦、保健婦が64%を占めている。現在就業していないものの多くは主婦業に専念していた。(表2)

2. 看護学科の存在意義について

全体的にみると、「キャリアの基礎」「仕事をしていく上での支え」がそれぞれ15.8%、ついで「母校であることが心の支えである」「誇りに思っている」の割合が多く、S50年代卒は、「仕事をしていく上での支え」の割合が多かった。(表3、表4)

上記のような存在の看護学科が看護の発展に役立っていると考えているかについて全体的にみると、48.7%が何等かの貢献があるとした。その内容は、「地道であるがそれぞれの場において指導的・管理的な役割をとっている」また「地道ではあるが指導的・管理的な役割をとれる人材

を養成している」をあわせて31.5%、「4年制大学として存続してきたことに意味がある」4.7%、「看護の質の向上に役立っている」4.3%、「看護の社会評価をあげている」4.0%、「研究活動を推進している」3.6%であった。（表5、表6）

3. それぞれの場において指導的・管理的な役割をはたしている人材の動向

就業中の188人の役職についてみるとS30年代卒の45%、S40年代卒の17%すなわち卒業後10年以上を経た人々の中からそれぞれの職場で指導的・管理的なポストにつくものがでてきている。

卒業後の役職の変化および職種間の移動について全体的にみると、卒業当所の職業一筋のものは、養護教諭が最も多く76.2%、ついで保健婦52.0%、看護婦45.8%、看護教員45.4%の順であった。裏がえすと、看護教員、看護婦、保健婦の順で他職業への移動があることになる。職業間の移動のパターンが多いのは看護婦で、ついで保健婦であった。看護教員は移動のパターンは少なかった。（表7、表8）

4. 専門能力を高める努力

看護に貢献できる人材になるために、あるいは人材をつくるためにどのような努力をしているかをみてみた。

1) 自己の能力を高める努力

「専門雑誌を読む」「関連分野の講習会に参加する」「学会に参加する」「施設内の研究会に参加する」などが上位にあがった。S30年代卒に日頃の研さんをまとめて「自らの発表経験をもつ」ことをあげた人が多く、論文作成数も45.9%と他の年代より多かった。（表9）（表11）

また職業別にみると、看護教員（大学）や養護教諭が発表経験の機会を持ちやすいようであった。論文の作成数も当然のことともいえるが看護教員（大学）が70.3%と高かった。（表10）（表12）

現在参加している学会、研究会の一人当たり全体平均数は2.2であった。（表13）

現在持っている研究のテーマや論文を作成していくにあたって学生時代に行った卒業研究の影響についてみると、全体では、「テーマが現在も継続している」ものが3.7%、「卒業後の進路を決定するのに関係があった」ものが6.9%、「なんらかの役立つ事があった」としたものが38.2%である。なんらかの役立つ事があったとしたもののうち「看護をする姿勢が決定した」としたものが30.1%「研究を評価するのに役立った」「研究方法が役立った」としたものがあわせて6.4%であった。

職業別にみると、看護教員（大学）にテーマが持続しており、看護の姿勢を決めていくことや理論的根拠をもつことに役だったとしたものが多いようであった。（表14）（表15）

今後、能力を高めるためにどのような活動をしていきたいと考えているかについては、「さらに専門的知識・技術を高めたい」「論文をまとめたい」が各年代別、職業別とも多かった。特に、S30年代卒および看護教員(大学)に「論文をまとめたい」と考えているものがあった。S50年代卒および看護婦・保健婦には「転職したい」「教職につきたい」願望のものが多い。(表16)(表17)

しかし、研究や論文作成の必要性を感じながらも行うことが困難な理由として、「時間が無い」「指導者がいない」と答えたものが多く、これに加えて、S50年代卒や、看護婦、保健婦には「方法がわからない」「仲間がいない」としたものも多かった。(表18)(表19)

2) 他人の能力を高める努力

「対象者の看護上の問題点をはなしあう」「新しい知識の伝達や啓蒙をする」「共同研究を企画して呼び掛ける」「研究会への参加を呼び掛ける」「学会への参加を呼び掛ける」などの活動をしている。S30年代卒では上記の活動がほぼ同率で行われているが、S40年代卒・S50年代卒では「対象者の看護上の問題点をはなしあう」「新しい知識の伝達や啓蒙をする」の2項目が高率であった。職業別にみると、養護教諭は他の職業に比べて「問題点をはなしあう」機会が少なく、看護教員(高校)は新しい知識の伝達や学会参加への呼び掛けが少なかった。(表20)(表21)

5. 現在の仕事に対する満足と誇り

まず、満足度については、卒業年代別にみると、188名中68.8%が満足していると答えた。理由として、各年代とも「主体的な仕事である」が多く、ついで、S30年代卒は「専門職である」をあげ、S50年代卒は「一生働ける仕事である」をあげた。

職業別にみると、保健婦や養護教諭の30~47%が「主体的な仕事である」「一生働ける仕事である」としたのに対して、看護婦は2.3~23.3%と非常に少なかった。(表22~25)

誇りについて、卒業年代別にみると、186名中83.8%が誇りを持っていると答え、理由として、卒業年代別・職業別ともに半数のものが「やりがいがある」を一位にあげた。また、S30年代卒は36.6%のものが「専門職である」としたが、S50年代卒は7.7%であった。

職業別でみると、看護婦・看護教員(高校)の専門職意識が低かった。(表26~29)

ま と め

1. 高知女子大学看護学科は、卒業生の「キャリアの基礎」「仕事をしていく上での支え」であり、「地道ではあるがそれぞれの場において指導的・管理的な役割をとっている」ことにより看護の発展に貢献している。
2. 卒業後の役職の変化には種々のパターンがあるが、卒業後10年を経る頃より、それぞれの職

場で指導的・管理的なポストにつくものができています。

3. 自己の専門能力を高める努力として、「専門雑誌を読む」「関連分野の講習会に参加する」「学会に参加する」「施設内・外の研究会に参加する」などが上位にあがった。
4. また、自己の専門能力を高める努力として、S30年代卒に「自らの研究発表経験をもつ」ことをあげたものが多かった。また今後も、「さらに専門的知識・技術を高めたい」「論文をまとめたい」と考えているものも多かった。なかでも、看護教員(大学)や養護教諭が発表経験を持つ機会が多く、論文の作成数も多かった。
5. 学生時代に行った卒業研究が何等かの役に立ったとしたものが30.1%あった。
6. 他人の能力を高める努力として「対象者の看護上問題点をはなしあう」「新しい知識の伝達や啓蒙をする」「共同研究を企画して呼び掛ける」などがなされていた。職業別では、他職業に比べ養護教諭に「問題点をはなしあう」機会が少なく、看護教員に「新しい知識の伝達」や「学会参加」への呼び掛けが少なかった。
7. 現在の仕事に対する満足と誇りは全体的に高く、理由として「主体的な仕事である」「専門職である」「やりがいがある」をあげていた。しかし、看護婦には「主体的な仕事」「一生働ける仕事」と答えたものが他職業に比べて少なかった。また、専門職意識が看護婦・看護教員(高校)で低かった。

おわりに

最後に、卒業生が、看護学科に今後期待することとして、「卒後教育プログラム(再教育)の準備をしてほしい」をはじめとして、卒後教育の充実をはかってほしい15.4%、「大学院設置を望む」が8.7%、「人材の養成に力をいれる」9.9%、「研究活動をすすめる」ことや「教員構成を検討する」などを含めて大学のありかたについて改善・検討を望むもの17.4%が上位にあがった。(表30)(表31)

これらのことは、高知女子大学看護学科が看護の発展に貢献しつづけるためにも、また、卒業生の専門能力を高めていくためにも、今後の大きな課題と言えよう。

本論の他、この動向調査の結果をもとに、

- 1) 山崎智子：看護学発展への貢献 — 高知女子大学看護学科30年のあゆみを通して —、日本看護科学会誌 5(1)、Oct, 1985
- 2) 大名門裕子、野嶋佐由美、森下利子：看護の専門職への過程、高知女子大学紀要(自然科学編)第33巻、1985

の論文がまとめられています。合わせて御参考下さい。

末筆ではありますが、動向調査に御協力下さいました卒業生の皆様に深謝いたします。

表1-1 卒業年代別現在の就業状況

	S 3 0年代	S 4 0年代	S 5 0年代	不 明	計
総 数	80 (32)	76 (30)	90 (35)	7 (3)	253 (100)
職 業 あ り	61 (76)	47 (62)	77 (86)	3 (43)	188 (74)
職 業 な し	19 (24)	29 (38)	13 (14)	4 (57)	65 (26)

()は%

表1-2 就業内容 N=188

看 護 婦	43 (23)
保 健 婦	46 (24)
助 産 婦	—
養 護 教 諭	46 (24)
看 護 高 校	24 (13)
教 員 大 学	27 (15)
そ の 他	2 (1)

()は%

表2-1 就業者の卒業年代別内訳 N=188

	S 3 0年代	S 4 0年代	S 5 0年代	不 明	計
看 護 婦	13 (21)	7 (15)	22 (29)	1 (33)	43 (23)
保 健 婦	5 (8)	13 (28)	27 (35)	1 (33)	46 (24)
養 護 教 諭	23 (38)	7 (15)	15 (19)	1 (33)	46 (24)
看 護 教 員	19 (31)	19 (43)	13 (17)	—	51 (28)
そ の 他	1 (2)	1 (2)	—	—	2 (1)

()は%

表2-2 就職していない者の内訳 N=65

	S 3 0年代	S 4 0年代	S 5 0年代	不 明	計
休 職 中	1 (5)	—	1 (8)	—	2 (3)
主 婦	16 (85)	24 (83)	8 (61)	3 (75)	51 (79)
就 学 中	1 (5)	2 (7)	3 (23)	—	6 (9)
そ の 他	1 (5)	3 (10)	1 (8)	1 (25)	6 (9)

()は%

表3 あなたにとって看護学科はどのような存在ですか(卒業年代別) N=253 NA=76

	キャリアの 基礎	仕事上での 支え	母校で心の 支え	誇り	母校である	懐かしい 存在	生きる指針	実存的意義	遠い存在	その他
S30年代	1.2.5	1.2.5	1.1.2	6.2	2.5	1.3	5.0	1.3	8.7	3.7
S40年代	2.1.0	9.2	6.6	1.1.8	5.3	6.6	2.6	—	3.9	2.6
S50年代	1.6.7	2.5.6	6.7	6.8	6.7	4.4	3.3	3.3	—	1.1
不明	—	—	—	—	—	1.4.2	—	—	5.6	—
総数	1.5.8	1.5.8	7.9	7.9	4.7	4.3	3.6	1.6	5.9	2.4

数字は各年代の総計に対する%

表4 あなたにとって看護学科はどのような存在ですか(職業別) N=253 NA=76

	キャリアの 基礎	仕事上での 支え	母校で心の 支え	誇り	母校である	懐かしい 存在	生きる指針	実存的意義	遠い存在	その他
看護婦	6.9	2.5.5	9.3	9.3	4.6	2.3	4.6	—	6.9	4.6
保健婦	1.5.2	2.6.0	8.6	8.6	6.5	2.1	—	4.3	—	4.3
養護教諭	1.5.2	1.9.5	6.5	8.6	2.1	6.5	4.3	2.1	6.5	2.1
看護 高校	2.0.8	2.0.8	8.3	8.3	4.1	4.1	—	—	8.3	4.1
教員 大学	2.5.9	3.7	3.7	—	1.1.0	3.7	3.7	3.7	—	—
職業なし	1.8.4	3.0	6.1	9.2	3.0	6.1	—	6.1	9.2	—

数字は各職種の総計に対する%

表5 看護学科の看護の発展への貢献(卒業年代別)

N = 253 NA = 101

	卒業生の活躍	人材の養成	地道な活躍	歴史的な貢献	看護の質の向上	社会評価	研究活動	地域への貢献	学問への貢献	役立っていない	わからない
S30年代	13.7	11.2	11.2	1.2	5.0	8.7	-	-	1.2	2.5	12.5
S40年代	13.1	9.2	3.9	6.5	6.5	2.6	1.3	1.3	-	-	13.1
S50年代	16.7	14.4	3.3	6.7	2.2	1.1	-	-	-	6.7	13.3
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.2
総数	14.2	11.4	5.9	4.7	4.3	4.0	0.3	0.3	0.3	3.2	13.0

数字は各年代の総計に対する%

表6 看護学科の看護の発展への貢献(職業別)

N = 253 NA = 101

	卒業生の活躍	人材の養成	地道な活躍	歴史的な貢献	看護の質の向上	社会評価	研究活動	地域への貢献	学問への貢献	役立っていない	わからない
看護婦	13.9	20.9	13.9	-	9.3	2.3	4.6	-	-	4.6	13.9
保健婦	19.5	8.6	19.5	-	6.5	-	2.1	2.1	-	15.2	15.2
看護教諭	8.6	8.6	8.6	-	-	6.5	4.3	-	-	17.3	17.3
看護 高校	20.8	12.5	20.8	4.1	8.3	8.3	4.1	-	-	8.3	8.3
教員 大学	18.5	-	18.5	14.8	3.7	3.7	-	-	3.7	11.0	11.0
職業なし	9.2	13.8	9.2	4.6	3.0	4.6	4.6	-	-	9.2	9.2

数字は各職種別の総計に対する%

表 8-1 卒業後の役職の変化（職種間の移動）

N = 253 NA = 52

	S 30年代	S 40年代	S 50年代	現在主婦	現在学生	年代不明	計
看護婦一筋	5	3	2 2	1 8	1	1	5 0
一保健婦	—	4	8	4			1 6
〃 一看護婦	1	—	—	1			2
〃 一看護教員一保健婦	—	1	—	—			1
〃 一看護教員一大学	1	—	—	—			1
一助産婦一看護婦	—	—	—	1			1
一養護教諭	—	2	—	—		1	3
〃 一看護教員	2	1	—	—			3
〃 一保健婦一養護教諭	1	—	—	—			1
一看護教員	1	5	2	2			1 0
〃 一看護婦	6	1	—	1			8
〃 一保健婦	—	—	—	1			1
〃 一養護教諭	1	1	1	—			3
〃 一看護婦一看護教員一看護婦	1	—	—	—			1
〃 一看護婦一看護教員一養護教諭一看護婦	—	—	—	1			1
〃 一大学	1	2	—	1			4
〃 一大学一看護婦	1	—	—	—			1
〃 一大学一看護教員一看護婦一大学	1	—	—	1			2
一大学助手・講師	—	—	5	—			5

“	— 大学講師— 大学教授	4	1	—	—	—	5
“	— 保健婦	—	—	1	—	—	1
“	— 看護教員	1	1	2	4	—	8
— 研究員— 大学講師		—	—	—	1	—	1
保健婦— 筋		2	5	18	1	1	27
— 看護婦— 保健婦		—	1	—	—	—	1
“	— 保健婦— 助産婦— 大学	—	1	—	—	—	1
“	— 助産婦	—	—	1	—	—	1
“	— 養護教諭	—	—	—	1	—	1
“	— 看護教員— 保健婦	—	1	—	—	—	1
“	— 看護教員— 大学教授	2	—	—	—	—	2
— 看護婦— 衛生管理者		—	—	1	—	—	1
— 養護教諭		—	2	—	1	—	3
“	— 看護教員	—	—	—	1	—	1
“	— 大学	1	—	—	—	—	1
— 看護教員		—	—	2	—	—	2
“	— 保健婦	2	—	—	—	—	2
“	— 養護教諭	1	—	—	—	—	1
“	— 養護教諭— 看護教員	1	—	—	—	—	1
“	— 看護婦— 養護教諭	1	—	—	—	—	1

表 8-2

“	— 大学助手 — 大学助教授	3	—	—	—	—	—	—	—	3
— 大学		—	1	—	—	—	—	—	—	1
看護教諭一筋		1	4	2	1	1	5	1	3	3
— 看護婦		—	1	—	—	—	—	—	—	1
“	— 養護教諭	—	—	—	—	—	1	—	—	1
“	— 看護教員	2	—	—	—	—	—	—	—	2
“	— 大学	1	—	—	—	—	—	—	—	1
— 保健婦		—	—	—	—	—	2	—	—	2
— 看護教員		1	—	—	—	—	—	—	—	1
“	— 養護教諭	2	—	—	—	—	—	—	—	2
看護教員一筋		—	2	2	—	—	3	—	—	5
— 看護婦		—	2	—	—	—	—	—	—	2
“	— 看護教員	—	1	—	—	—	—	—	—	1
— 養護教諭		1	1	—	—	—	—	—	—	2
“	— 保健婦	—	—	—	—	—	1	—	—	1
助産婦 — 看護婦 — 看護教員 — 看護婦		—	1	—	—	—	—	—	—	1
大学		—	—	—	—	—	—	—	—	—
— 看護婦 — 保健婦 — 看護教員		—	1	—	—	—	—	—	—	1

表7 就業者の現在の役職

N=186

複数回答

	S30年代	S40年代	S50年代	不明	計
総 婦 長	4	1	-	-	5
婦 長	5	1	-	-	6
主 任	1	2	1	-	4
看 護 婦	2	3	21	1	27
教 務 主 任	2	-	-	-	2
教 諭	22	16	18	1	57
保 健 主 事	2	-	-	-	2
教 授	5	-	-	-	5
助 教 授	8	3	-	-	11
講 師	1	2	1	-	4
助 手	-	3	5	-	8
学 科 主 任	1	1	-	-	2
室 長	1	-	-	-	1
保 健 婦	2	10	27	1	40
そ の 他	5	5	4	-	14

表9 専門能力を高めるための努力（卒業年代別） N = 253

	専門雑誌をよむ	施設内研究会に参加	施設外研究会に参加	学会に参加	講習会参加	発表経験をもつ	新知識を仕事にいかす	その他
職業あり	S30年代	34.4	55.7	50.8	49.2	59.0	45.9	11.4
	S40年代	29.8	44.7	36.2	57.4	27.6	34.0	4.2
	S50年代	38.9	37.7	25.9	45.4	24.7	31.2	3.9
不明	100.0	33.3	33.3	66.6	33.3	33.3	—	—
職業なし	15.3	9.2	9.2	16.9	15.3	9.2	10.7	10.7

数字は各年代の総計に対する% 無回答 49

表10 専門能力を高めるための努力（職業別） N = 186

	専門雑誌をよむ	施設内研究会に参加	施設外研究会に参加	学会に参加	講習会参加	発表経験をもつ	新知識を仕事にいかす	その他
看護婦	79.1	41.9	32.6	34.9	39.5	37.2	18.6	4.7
保健婦	82.6	41.3	41.3	32.6	54.3	23.9	39.1	2.1
養護教諭	89.1	32.6	56.5	21.7	65.2	41.3	37.0	10.9
看護高校教員	95.8	25.0	58.3	29.2	41.7	25.0	33.3	8.3
	92.6	33.3	59.3	88.9	44.4	63.0	59.3	7.4
総数	86.5	36.0	47.8	38.1	50.3	37.0	36.0	6.4

数字は各職種の総計に対する% 無回答 4

表11 業績(論文作成)の状況(卒業年代別) N=253

	業績あり	業績なし
S30年代	28 (45.9)	33 (54.1)
S40年代	18 (38.2)	29 (61.8)
S50年代	17 (22.1)	60 (78.9)
不明	—	4 (100.0)
職業なし	15 (23.1)	49 (76.9)
総数	78 (30.8)	175 (69.2)

()は%

表12 業績(論文作成)の状況(職業別) N=186

	業績あり	業績なし	一人当たり平均論文数
看護婦	9 (20.9)	34 (79.1)	3.7
保健婦	9 (19.5)	37 (80.5)	5.8
養護教諭	16 (34.7)	30 (65.2)	3.4
看護高校	9 (37.5)	15 (62.5)	3.2
教員大学	19 (70.3)	8 (29.7)	19.9
総数	42 (33.3)	124 (66.6)	8.8

()は%

表13 現在加入している学会・研究会 N=118

	一人当たり平均学会数
S30年代	2.5
S40年代	2.5
S50年代	1.4
不明	—
職業なし	2.1
総数	2.2

表 1 4 卒業研究（卒業論文）の影響（卒業年代別）

N = 2 5 1

	仕 事 あ り				仕 事 な し				総 計		
	S30年代	S40年代	S50年代	不 明	小 計	S30年代	S40年代	S50年代		不 明	小 計
テーマの持続	3.3	4.3	3.9	—	3.7	—	—	—	—	—	2.8
動向に関係	6.6	4.3	9.0	—	6.9	—	—	2 3.0	—	4.6	6.3
役立った	3 0.0	3 6.9	4 6.7	—	3 8.2	1 5.8	3 4.4	3 8.4	2 5.0	2 9.2	3 5.6
研究するために	—	2.1	6.4	—	3.2	—	—	7.6	2 5.0	3.0	3.2
研究方法	—	2.1	6.4	—	3.2	—	—	7.6	—	1.5	2.8
看護の姿勢	2 6.6	2 5.0	3 2.4	—	3 0.1	1 0.5	3 1.3	2 3.0	—	2 1.5	2 7.7
資料として	3.3	2.1	1.2	—	1.6	1 5.7	3.4	—	—	3.0	2.0
今後役立てたい	1.7	4.3	2.5	—	2.7	—	—	—	—	7.6	2.0
無関係	3 5.0	1 0.8	9.0	3 3.3	1 8.3	2 6.3	3.4	2 3.0	2 5.0	1 3.8	1 7.0
無回答	2 5.0	4 5.6	2 8.6	6 6.6	3 2.3	5 7.8	5 8.6	1 5.4	5 0.0	4 9.2	3 6.4

数字は各年代の総計に対する%

表15 卒業研究(卒業論文)の影響(職業別)

N=251

	看護婦	保健婦	養護教諭	看護教員		仕事なし
				高校	大学	
テーマの持続	2.3	6.5	—	—	11.1	1.5
動向に関係	13.9	6.5	—	—	11.1	4.6
役立った	25.6	41.3	36.9	45.8	44.4	29.3
研究するために	4.6	6.5	—	4.1	—	3.0
研究方法	2.3	2.1	4.3	4.1	3.7	1.5
看護の姿勢	18.6	32.6	28.2	37.5	40.7	21.5
資料として	—	—	4.3	—	—	3.0
理論的根拠	—	—	—	—	3.7	—
今後役立てたい	2.3	—	2.1	4.1	7.4	7.6
無関係	23.2	10.8	21.7	16.6	14.8	13.8
無回答	32.4	34.7	36.9	29.1	11.1	50.7
卒研をしていない	44.3	54.5	41.4	53.7	74.1	35.5

数字は各職種の種類に対する%

表16 今後したいこと（卒業年代別）

N=253

	専門的知識 を高める	論文を まとめたい	転職したい	教職に つきたい	管理職に つきたい	配置転換 を希望	家庭に はいりたい	仕事を やめたい	その他	N A
S30年代	77.0	36.0	4.9	3.2	1.6	3.3	—	8.2	14.8	8.5
S40年代	78.7	17.0	8.5	6.4	2.1	6.4	4.3	—	10.6	1.3
S50年代	89.6	12.9	15.6	9.1	3.9	6.5	6.5	1.3	5.2	33.3
不明	66.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職業なし	23.0	10.7	3.0	6.1	—	1.5	—	—	15.3	56.9

数字は各年代の総計に対する%

表17 今後したいこと（職業別）

N=186

	専門的知識 を高める	論文を まとめたい	転職したい	教職に つきたい	管理職に つきたい	配置転換 を希望	家庭に はいりたい	仕事を やめたい	その他
看護婦	72.0	16.2	18.6	9.3	2.3	9.3	6.9	2.3	9.3
保健婦	97.8	13.0	6.5	15.2	6.5	8.6	4.3	—	10.8
養護教諭	41.3	8.6	4.3	—	—	2.1	4.3	—	6.5
看護 高校	70.8	16.6	8.3	—	—	4.1	4.1	—	16.6
教員 大学	85.1	74.0	11.1	—	—	—	—	—	11.1

数字は各職種総数の総計に対する%

表18 研究活動の実施を困難にしている理由(卒業年代別)

N=253

	設備がない	研究費がない	時間が足りない	指導者がいない	方法がわからない	仲間がいない	テーマがない	やりたくない	その他
職業あり	6.5	13.1	57.4	29.5	9.8	13.1	1.6	3.3	14.7
S30年代	6.3	19.1	70.2	34.0	14.9	17.0	-	10.6	8.5
S40年代	25.9	22.1	61.0	57.1	28.6	29.9	-	5.1	6.5
S50年代	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-
不明	9.2	3.1	9.2	6.1	1.5	9.2	-	3.1	9.2
職業なし									

数字は各年代の総計に対する%

無回答 68

表19 研究活動の実施を困難にしている理由(職業別)

N=186

	設備がない	研究費がない	時間が足りない	指導者がいない	方法がわからない	仲間がいない	テーマがない	やりたくない	その他
看護婦	6.9	9.3	55.8	44.1	27.9	25.5	-	6.9	9.3
保健婦	15.2	23.9	65.0	58.6	21.7	26.0	-	4.3	6.5
養護教諭	19.5	23.9	56.5	39.1	13.0	19.5	2.1	2.1	10.8
看護員	12.5	16.6	70.8	29.1	25.0	25.0	-	12.5	4.1
高校									
大学	7.4	14.8	55.5	18.7	11.1	3.7	-	7.4	18.7

数字は各職種別の総計に対する%

無回答 22

表 2 0 自分以外の人の能力を高める努力（卒業年代別）

N = 253

	研究会への参加	共同研究を企画する	学会参加へのよびかけ	新知識の伝達	院内で講義をする	講演活動をする	問題点を話しあう	その他
職業あり	5.24	3.93	2.95	3.77	6.5	2.2.9	4.4.3	1.1.5
S30年代	1.9.1	1.4.9	8.5	3.1.9	4.2	6.3	3.1.9	8.5
S40年代	1.4.3	6.4	7.8	2.5.9	2.6	3.9	4.4.2	5.1
S50年代	—	—	3.3.3	—	—	—	—	—
不明	3.0	4.6	1.5	7.6	1.5	1.5	1.3.8	3.0
職業なし								

数字は各年代の総計に対する%

無回答 99

表 2 1 自分以外の人の能力を高める努力（職業別）

N = 186

	研究会への参加	共同研究を企画する	学会参加へのよびかけ	新知識の伝達	院内で講義をする	講演活動をする	問題点を話しあう	その他
看護婦	3.7.2	2.0.9	2.0.9	3.0.2	1.8.6	7.0	4.1.9	4.7
保健婦	1.7.4	1.0.9	1.0.9	3.7.1	2.0	1.0.8	4.3.0	2.0
養護教諭	3.6.9	1.9.5	8.6	3.9.1	2.0	8.6	2.1.7	1.5.2
看護高校	1.2.5	1.2.5	2.0	1.2.5	4.0	—	5.0.0	4.0
看護大学	3.3.3	3.3.3	3.7.0	3.3.3	7.4	2.9.6	5.9.2	3.7
教員	3.3.3	1.8.8	1.6.1	3.8.7	6.9	1.0.7	4.0.8	6.4
総数								

数字は各職種総計に対する%

無回答 47

表 2 2 仕事に満足していますか(卒業年代別)

N=186

	満足している	満足していない	N	A	計
S 30 年代	46(76.6)	13(21.6)	1	(1.8)	60(100.0)
S 40 年代	33(71.7)	12(26.0)	1	(2.3)	46(100.0)
S 50 年代	47(61.0)	28(36.4)	2	(2.6)	77(100.0)
不明	2(66.7)	1(33.3)	-	-	3(100.0)
計	128(68.8)	54(29.0)	4	(2.2)	186(100.0)

表 2 3 満足している理由(卒業年代別)

N=186

複数回答

	専門職である	主体的な仕事である	一生働ける仕事である	人に喜ばれる仕事である	社会的評価が高い	仕事にみあった報酬	その他
S 30 年代	44.2	45.9	13.1	6.5	1.6	8.2	6.6
S 40 年代	10.6	44.7	17.0	6.4	-	-	4.3
S 50 年代	15.6	29.9	20.8	6.5	2.6	1.3	9.1
不明	14.2	-	-	-	-	-	14.3

数字は各職種の総計に対する%

表 2 4 仕事に満足していますか(職業別)

N=186

	満足している	満足していない	N	A	計
看護婦	26(60.5)	16(37.2)	1	(2.3)	43(100.0)
保健婦	36(78.3)	10(21.7)	-	-	46(100.0)
養護教諭	35(76.1)	11(23.9)	-	-	46(100.0)
看護高校	14(58.3)	9(37.5)	1	(4.1)	24(100.0)
看護大	17(63.0)	8(29.6)	2	(10.7)	27(100.0)
計	128(68.8)	54(29.0)	4	(2.2)	186(100.0)

表 2 5 満足している理由（職業別）

N = 186

複数回答

	専門職である	主体的な仕事である	一生働ける仕事である	人に喜ばれる仕事である	社会的評価が高い	仕事にみあった報酬	その他
看護婦	27.9	23.3	2.3	11.6	2.3	2.3	11.6
保健婦	15.2	47.8	30.4	6.5	2.2	2.2	4.3
養護教諭	34.8	41.3	32.6	6.5	2.2	6.5	2.2
看護高校	4.2	41.7	8.3	—	—	4.4	12.5
教員大学	18.5	33.3	—	—	—	—	14.8

数字は各職種の総計に対する%

表 2 6 仕事に対して誇りをもてるか（卒業年代別）

N = 186

	もて	もてない	N	A	計
S30年代	54(90.0)	5(8.3)	1	(1.7)	60(100.0)
S40年代	38(82.6)	6(13.0)	2	(4.6)	46(100.0)
S50年代	62(80.5)	14(18.2)	1	(0.3)	77(100.0)
不明	2(6.67)	1(3.33)	—	—	3(100.0)
総数	156(83.8)	26(13.9)	4	(0.3)	186(100.0)

()は%

表 2 7 誇りをもてる理由（卒業年代別）

N = 186

複数回答

	やりがいがある	専門職である	生命を守る仕事である	社会的評価が高い	その他
S30年代	53.3	36.6	8.3	—	10.0
S40年代	52.2	23.9	8.6	2.1	2.1
S50年代	63.6	7.7	7.7	—	3.9
不明	33.3	33.3	—	—	—

数字は各年代の総計に対する%

表 28 仕事に対して誇りをもてるか(職業別) N=186

	もてる	もてない	N	A	計
看護婦	37(86.0)	5(11.6)	1	(2.3)	43(100.0)
保健婦	41(89.1)	4(8.7)	1	(2.3)	46(100.0)
養護教諭	36(78.3)	8(17.4)	2	(4.3)	46(100.0)
看護高校	19(79.2)	5(20.8)	-	-	24(100.0)
教員大学	23(85.2)	4(14.8)	-	-	27(100.0)
総数	156(83.8)	26(14.2)	4	(2.1)	186(100.0)

()は%

表 29 誇りをもてる理由(職業別) N=186 複数回答

	やりがいがある	専門職である	生命を守る仕事である	社会的評価が高い	その他
看護婦	60.5	14.0	14.0	2.3	4.6
保健婦	67.4	23.9	2.1	-	2.2
養護教諭	45.7	23.9	13.0	-	6.5
看護高校	54.2	12.5	4.2	-	8.3
教員大学	44.4	25.9	3.7	-	11.1

数字は各年代の総計に対する%

表30 高知女子大学看護学科に期待すること（卒業年代別）

N = 253

NA = 83

	卒業教育の充実	大学院の設置	大学のあり方の検討	人材の養成	カリキュラムの検討	他部門との協力	存在のPRをすす	公開講座の開講	理論と現場をつなぐ	その他
S30年代	13.7	11.2	16.3	8.7	7.5	5.0	5.0	5.6	3.7	11.2
S40年代	13.1	7.9	17.1	6.6	3.9	11.8	3.9	—	5.3	11.8
S50年代	20.0	18.9	20.0	14.4	5.5	3.3	7.8	5.5	—	16.0
不明	—	—	—	—	14.3	—	—	—	—	—
総数	15.4	8.7	17.4	9.9	5.9	6.3	5.5	3.6	2.8	10.7

数字は各年代の総計に対する%

表31 高知女子大学看護学科に期待すること（職業別）

N = 253

NA = 83

	卒業教育の充実	大学院の設置	大学のあり方の検討	人材の養成	カリキュラムの検討	他部門との協力	存在のPRをすす	公開講座の開講	理論と現場をつなぐ	その他
看護婦	9.3	11.6	18.6	—	2.3	13.9	4.6	4.6	2.3	9.3
保健婦	23.9	15.2	15.2	10.8	13.0	2.1	4.3	6.5	2.1	13.0
養護教諭	6.5	2.1	30.4	10.8	8.6	8.6	2.1	2.1	—	10.8
看護 高校	12.5	8.3	12.5	8.3	—	8.3	—	8.3	—	8.3
教員 大学	25.9	14.8	14.8	—	—	18.5	—	3.7	—	—
職業なし	10.7	4.6	12.3	10.7	6.1	4.6	9.2	—	4.6	3.0

数字は各職種別の総計に対する%

附表-1 業績内容(卒業年代別)

N=83

		S 3 0 年代	S 4 0 年代	S 5 0 年代
回 答 数		3 8	2 4	2 1
平 均 / 総 数		1 3.4 / 5 1 0	6.5 / 1 5 7	3.8 / 8 2
場 所	誌上発表	9.3 / 3 5 4	3.9 / 9 4	1.5 / 3 1
	学会発表	4.4 / 1 6 8	2.6 / 6 3	2.4 / 5 1
形 態	研究論文	6.7 / 2 5 5	3.9 / 9 4	3.2 / 6 8
	研究外論文	1.5 / 5 6	0.3 / 6	-
	著 書	2.0 / 7 5	0.7 / 1 6	-
	小 論 文	3.3 / 1 2 4	1.7 / 4 0	0.5 / 1 0
協 力 者	個 人	4.6 / 1 7 4	2.3 / 5 4	0.1 / 3
	共 同	7.3 / 2 7 8	4.3 / 1 0 2	3.8 / 7 9
	不 明	0.9 / 3 3	0.04 / 1	-

附表-2 業績内容(職業別)

N=77

		看 護 婦	保 健 婦	養 護 教 諭	看 護 教 員	
					高 校	大 学
回 答 数		1 7	1 0	2 2	8	2 0
平 均 / 総 数		6.3 / 1 0 7	9.8 / 9 8	3.6 / 7 9	6.1 / 4 9	17.4 / 3 4 8
場 所	誌上発表	2.9 / 4 9	5.1 / 5 1	1.8 / 3 9	2.4 / 1 9	12.9 / 2 5 8
	学会発表	3.4 / 5 8	4.7 / 4 7	1.8 / 3 9	3.7 / 3 0	4.5 / 9 0
形 態	研究論文	4.0 / 6 9	7.1 / 7 1	1.3 / 2 8	4.0 / 3 2	9.0 / 1 8 0
	研究外論文	1.9 / 3 2	1.0 / 1 0	0.2 / 4	0.1 / 1	1.2 / 2 3
	著 書	-	0.6 / 6	0.1 / 3	0.1 / 1	3.3 / 6 6
	小 論 文	0.2 / 4 4	1.2 / 1 2	1.9 / 4 1	1.8 / 1 4	3.8 / 7 5
協 力 者	個 人	2.2 / 3 8	1.0 / 1 0	1.7 / 3 7	1.0 / 8	5.0 / 1 0 0
	共 同	3.3 / 5 6	8.8 / 8 8	1.5 / 3 4	0.8 / 6	11.5 / 2 2 9
	不 明	-	-	0.4 / 8	2.9 / 2 3	-